

2 用語集

用語	解説
アグリビジネス	意欲ある農業経営者が経営の多角化や事業連携によって、販売流通・農産加工をはじめとする関連産業の付加価値を取り込んで経営を発展させるビジネスのこと。
エコフィード	食品製造副産物等を利用して製造された飼料です。環境にやさしい(ecological)や節約する(economical)などを意味する「エコ(eco)」と飼料を意味する「フィード(feed)」を合わせた造語。
オーガニックビレッジ	有機農業の拡大に向けて、ほ場の団地化などの生産から学校給食の利用など消費まで一貫した取組を、農業者、事業者、地域内外の住民などの関係者が参画の下、地域ぐるみで進める市町村のこと。
環境制御技術	外気温度、ハウス内温度、湿度、日射、CO2などを測定し、効率よく植物が光合成を行えるよう施設内環境を制御する技術。
関係人口	移住した「定住人口」でも観光で訪れた「交流人口」でもない、農山漁村地域と様々な形で関わる人。
ゲノミック評価	遺伝情報(ゲノム)を解析し、個体が持つ能力(例:肉質の良さや体重の増えやすさなど)を予測・評価すること。
高収益作物	主食用米と比べて面積当たりの収益性が高い作物を言い、原則として野菜、花き・花木及び果樹に該当する作物のこと。
飼養衛生管理基準	家畜の所有者が家畜飼養に係る衛生管理に関し最低限守るべき基準。家畜伝染病予防法において、飼養衛生管理基準を定め、それを遵守することが義務づけられている。
食材王国みやぎ	宮城の豊かな自然に囲まれた海・山・大地の育む食材の多彩さ、質の高さ、魅力を表す「メッセージ」であるとともに、これらの多彩な食材資源を基盤に食関連産業の振興を狙いとする民官の関係者共通の目指すべき「テーマ」として位置付けたもの。
食のバリューチェーン	規模の大小に関わらず、農産物の生産から製造・加工、流通、消費に至る各段階の付加価値を高めながらつなぐ、食を基軸とした付加価値の連鎖のこと。
食料安全保障	良質な食料が合理的な価格で安定的に供給され、かつ、国民一人一人がこれを入手できる状態をいう。令和6年5月の食料・農業・農村基本法の改正により、新たに定義付けられた。
食料システム	食料の生産から消費に至る各段階の関係者が有機的に連携することにより、全体として機能を発揮する一連の活動の総体をいう。令和6年5月の食料・農業・農村基本法の改正により、新たに位置付けられた。
ストックマネジメント	施設の機能がどのように低下していくのか、どのタイミングで、どのような対策を取れば効率的に長寿命化できるのかを検討し、施設の機能保全を効率的に実施することを通じて、施設の有効活用や長寿命化を図り、ライフサイクルコストを低減する取組。
スマート農業	ロボット、AI(Artificial Intelligence(人工知能)の略)、IoT(Internet of Things(モノのインターネット)の略)など先端技術を活用する農業
ため池サポートセンター	農業用水を貯水する「農業用ため池」のうち、決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設等が存在し、人的被害等を与えるおそれがあるものを「防災重点農業用ため池」として選定しており、その施設管理者等に対して技術的な指導、助言等を行う機関のこと。

用語	解説
田んぼダム	水田下流域の農地や宅地の洪水被害を軽減させるため、大雨が降った時に雨水を水田に一時的に貯留し、排水路や河川への流出を抑制する取組のこと。
地域計画	各地域が抱える「人と農地の問題」の解決を図るため、地域の話合いにより市町村が作成するもので、「今後の中心となる経営体」や「将来の農地利用のあり方」、「今後の地域農業のあり方」などをまとめた計画。
地域資源活用価値創出	6次産業化のほか、農山漁村の活用可能な地域資源を発掘し、磨き上げた上で、他分野と組み合わせて新しい事業を創出する取組。
畜産クラスター計画	地域の畜産の収益性向上を図るため、収益性向上のための取組、地域の関係者の役割分担等を記載した計画。
農業水利施設	河川水等を効率よく利用できるよう土木技術で造られたダム、揚水機場、排水機場、水路等の水利施設のうち、農業用に使用されるもの。
農業・農村の有する多面的機能	農業・農村は「食」を支えているだけでなく、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承などの働きを持っており、このような様々な働きのこと。
農業保険制度	農業保険制度には、「農業共済」と「農業経営収入保険」の2種類がある。農業共済は、全ての農業者を対象に、米、麦、畑作物、果樹、家畜、農業用ハウス等が自然災害によって受ける損失を補償。農業経営収入保険は、全ての農産物を対象に、自然災害による収量減少や価格低下をはじめ、農業者（青色申告が必要）の経営努力では避けられない収入減少を補償。
農村RMO (Region Management Organization)	農村型地域運営組織ともいう。複数の集落の機能を補完して、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を行う組織のこと。
農地集積・集約	農地の集積は、農地を所有し、又は借り入れること等により、利用する農地面積を拡大すること。農地の集約化は農地の利用権を交換すること等により、農作業を連続的に支障なく行えるようにすること。
農地の大区画化・汎用化	農地の面積を50a以上に整備することを大区画化といい、農地に排水路及び暗きよを整備して水はけを良くし、高収益作物等を栽培できるようにすることを汎用化という。
農泊	農山漁村地域ならではの伝統的な生活体験と地域の人々との交流を楽しみつつ、農家や古民家等での宿泊によって、旅行者にその土地の魅力を味わってもらう農山漁村滞在型旅行。
農福連携	農業と福祉が連携し、障害者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障害者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する取組。
豚熱	ウイルスによって引き起こされる豚やイノシシの伝染病であり、発熱、食欲不振、元気消失等の症状を示す。治療法はなく、豚で感染を確認した場合、家畜伝染病予防法に基づき殺処分や焼埋却処分等の防疫措置の対象となる。
みどりの食料システム戦略	令和3年5月に農林水産省が定めた、持続可能な食料システムの構築を目指す戦略。中長期的な視点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組やカーボンニュートラル等の環境負荷低減のイノベーションを推進するもの。
みやぎ食と農の県民条例基本計画	「みやぎ食と農の県民条例」（平成12年7月公布）に掲げる目標の実現に向け、食、農業及び農村の振興に関する施策を効果的に実施するための基本的な計画として策定している。

用語	解説
有機センター	畜産農家の家畜ふん尿などを堆肥化し、生産された堆肥を有機質肥料として販売する施設。堆肥センターともいわれる。地域内の資源循環利用を推し進める中心的役割を担っている。
有機JAS制度	JAS法に基づき、「有機JAS」に適合した生産が行われていることを第三者機関が検査し、認証された事業者に「有機JASマーク」の使用を認める制度。農産物、畜産物及び加工食品は、有機JASマークが付されたものでなければ、「有機〇〇」と表示できない。
流域治水	自治体や企業、住民など、河川流域に関わるものすべてで行う治水対策のこと。
BSE (Bovine Spongiform Encephalopathy)	牛海綿状脳症。異常プリオンタンパク質が主に脳に蓄積し、脳の組織がスポンジ状となり、異常行動、運動失調などの神経症状を示し、最終的に死に至る牛の病気の一つ。
GAP (Good Agricultural Practices 農業生産工程管理)	農業生産現場において、食品の安全確保などを目的とした適切な農業生産を実施するための管理ポイントを整理し、それを実践・記録する取組。
IoT	Internet of Things の略でモノのインターネットのこと。世の中に存在する様々なモノがインターネットに接続され、相互に情報をやり取りして、自動認識や自動制御、遠隔操作などを行うこと。
OMO (Online Merges with Offline)	オンライン (ECサイトやアプリ等) とオフライン (実店舗やイベント等での顧客体験) を融合することで、双方の垣根を越えて消費者の購買意欲を創り出そうとするマーケティング手法のこと。
RTK (Real Time Kinematic) システム	地上に設置した基準局から、衛星測位に係る補正情報を配信して、測位精度を向上させるシステム。

(五十音順)